法隆寺大鏡

第三十九集

始

法隆寺大鏡第卌九集挿圖解說

第一、─第十、金堂 木彫着色廣目天王立像

身長四尺四寸一分 臺高二尺一寸二分
正面 斜面 背面 面部 光背

同 木彫着色增長天王立像

身長四尺四寸四分 臺高二尺一寸
正面 斜面 背面 面部 錻飾金物

前號に現はせる持國天多聞天像と相並びて、金堂內壇上に在りて四隅を守護する四天王像の其の二なり、材は孰れも楠木にして、芳芬直に掬すべからずと雖も、老樟の齡は堅緻なる木目にもそれと知られ、材質と彫法と相俟つて、威力の重厚なるを表し得たりと云ふべし、像今や古色蒼然、暗塵の蔽ふ所となれりと雖も、五彩の絢爛たりし跡、尙ほ明かに之を辿るを得べく、脣の朱彩、鎧色の種々なる皆彫法の足らざるを補ふて、更に莊嚴を加へんとせしを見る、間〻截金術の使用せらるゝは、我國に於ける同法の嚆矢と稱すべし、其彫法の高古にして年代の悠遠なる、幾多佛敎尊像中に在つて屈指の地位を占むることは說かずして旣に明らかなる所なり 內にしては金堂壇上に在りて四方を鎭護し、外に對しては我が藝術界宗敎界は偏に此像によりて擁護せらるゝの威なき能はざる也

第十一、─第十四、御物 香木經臺

幅一尺四寸七分 奥一尺一寸八分 高一寸八分
表面 側面 裏面 包裂

材は沈香を削り合せて、緣に斑竹を伏せ、香狹間形の外面には、截金若くは彩色もて、樹木花鳥を畫き、其上に玳瑁を薄く蔽へるものなり、古今目錄抄には次經臺廣長□□面沈水香端籐斑竹雜香塗去瑩黑足象牙染造青色有文六生持也とありて、足即ち香狹間形を染象牙と爲せど、今見る所を以てすれば、これ象牙にあらずして、正しく木の上に玳瑁を蔽へるなり、玳瑁を透かして見ゆる繪文樣は案外明瞭にして、鷺鷥の翼擇り立てて水に浮べるなど最も奇とするに足る、目錄抄にも云へる如く、傳へて經臺と爲す所以は明らかならざれど、小野妹子將來の法花經を安置すべき料なりとも云ふ、我國には產せざる沈香斑竹を用ゐて、製法奇古を極めたるよりするも、其の海外の製たるを否むべからず、妹子將來といふも敢へて疑を挾むべからざるが如し、斯かる珍寶の今日まで保存せられたる奇緣あればこそ、之を包むべき裂地の奉納を見たるなれ、包裂は表赤地梅折枝模樣金襴裏は紅絹にして左の墨書あり

和州法隆寺妹子將來法華經箱卓几之袋
江州彥根城主井伊少將婦部頭
直興公母氏歸依弟子
乾光院桂觀壽昌大姉喜捨之
伏希井伊直興福壽延享
子孫榮昌家門吉利國土安寧
武運長久祿位增進者
元祿七甲戌孟冬望日
住武州弘福鐵牛道機誌

江州彥根公井伊直興の母堂が祈願によりて調進せられ、江戶弘福寺の沙門にして有名なる鐵牛道機が旨を承けて、其の由筆とりしも亦

極めて奇緣なりと云ふべし

第十五、―第十七、御物　紙本墨書法華經

付赤旃檀經筒　實大

此法華經は體裁に於て普通の寫經と頗る面目を異にす、其の一行三十餘字、一紙五十餘行を算するの細字を以てせるのみならず、開卷第一に妙法蓮華經七卷一部成と提題せるも實に異數の制に係れり、縱に列らなれる烏糸欄の如きも間を劃する廣狹一ならず、或は劃して未だ充分なるに及ばず。事を草々の中に運びて體裁の整備を措いて問はざるものゝ如し、更に其の内容よりすれば、羅什譯の廿八品より成りながら、卷は七卷にして彼の八軸なりと一致せず、また羅什の先譯したる七卷とは卷數を同くせるも、彼の廿七品なるとは異りて、普通に知られたる廿八品より成れり、但し本文は所謂羅什譯と知られたるものと同じくして、卷數次第に於て少しく異同を見るなり、第一卷より第三卷までは流布本と同一なれども、第四卷には五百弟子受記品第八よりして見寶塔品第十一に及び、更に提婆達多品第十二勸持品第十三をも併せ收めたり、尙卷數を逐ふて其の詳細を示さば左の如し。

本經	流布本
第五卷	第五卷
安樂行品第十四	提婆達多品第十二
從地涌出品第十五	勸持品第十三
如來壽量品第十六	安樂行品第十四
分別功德品第十七	從地涌出品第十五
第六卷	第六卷
隨喜功德品第十八	如來壽量品第十六
法師功德品第十九	分別功德品第十七
常不輕菩薩品第廿	隨喜功德品第十八
如來神力品第廿一	法師功德品第十九
囑累品第廿二	第七卷
藥王菩薩本事品第廿三	常不輕菩薩品第廿
第七卷	如來神力品第廿一
妙音菩薩品第廿四	囑累品第廿二
普門品第廿五	藥王菩薩本事品第廿三
陀羅尼品第廿六	妙音菩薩品第廿四
妙莊嚴王本事品廿七	第八卷
普賢菩薩勸發品第廿八	普門品第廿五
	陀羅尼品第廿六
	妙莊嚴王本事品第廿七
	普賢菩薩勸發品第廿八

此の異様なる卷數次第は何を本として成れるか姑く疑を存す、目錄抄には此經者七卷廿八品經之本也而複一卷作四卷訖如流布經自五卷不似普通之題と云るも故なきにあらざる也、聖德太子の註疏を付せられたるものは廿七品經なりしに、此經夙に傳來せられながら新様の廿八品なるも疑訝に堪へざる次第なり、衡山三人老僧一人沙彌謨奉此經の傳說の存する其の謂れ無しとせず、奥に則天文字を交へて長壽三秊六囝一囝抄訖寫經人雍州長安縣人李元惠於揚州敬告此經とあるを目錄抄には後の竄入とすれど、親しく之を見れば筆致墨色、

本文と同一にして何等の筆人と認むべき疑點なし、唯此奥書よりすれば李元惠本經を書寫するの時、羈旅に在りしと見るを至當とすべく、細楷を主として全品を一軸に收めて以て携帶に便にし、行界の整備を缺き、書體の始終一ならざるが如きもまた客舍執筆の匆忙を語るものならんか、其體裁の奇なるまた此に因由せざるにあらざるべし、軸の製も異樣にして銅製杵頭形を爲し、中を空洞にして玻璃丸を嵌し、上方の孔を通して之を窺ひ得るの裝置とす、玻璃丸上方なるは瑠璃色にして、下方なるは琥珀色なり、書寫し了りて直に裝せられたるものならん、古樣掬するに堪えたり

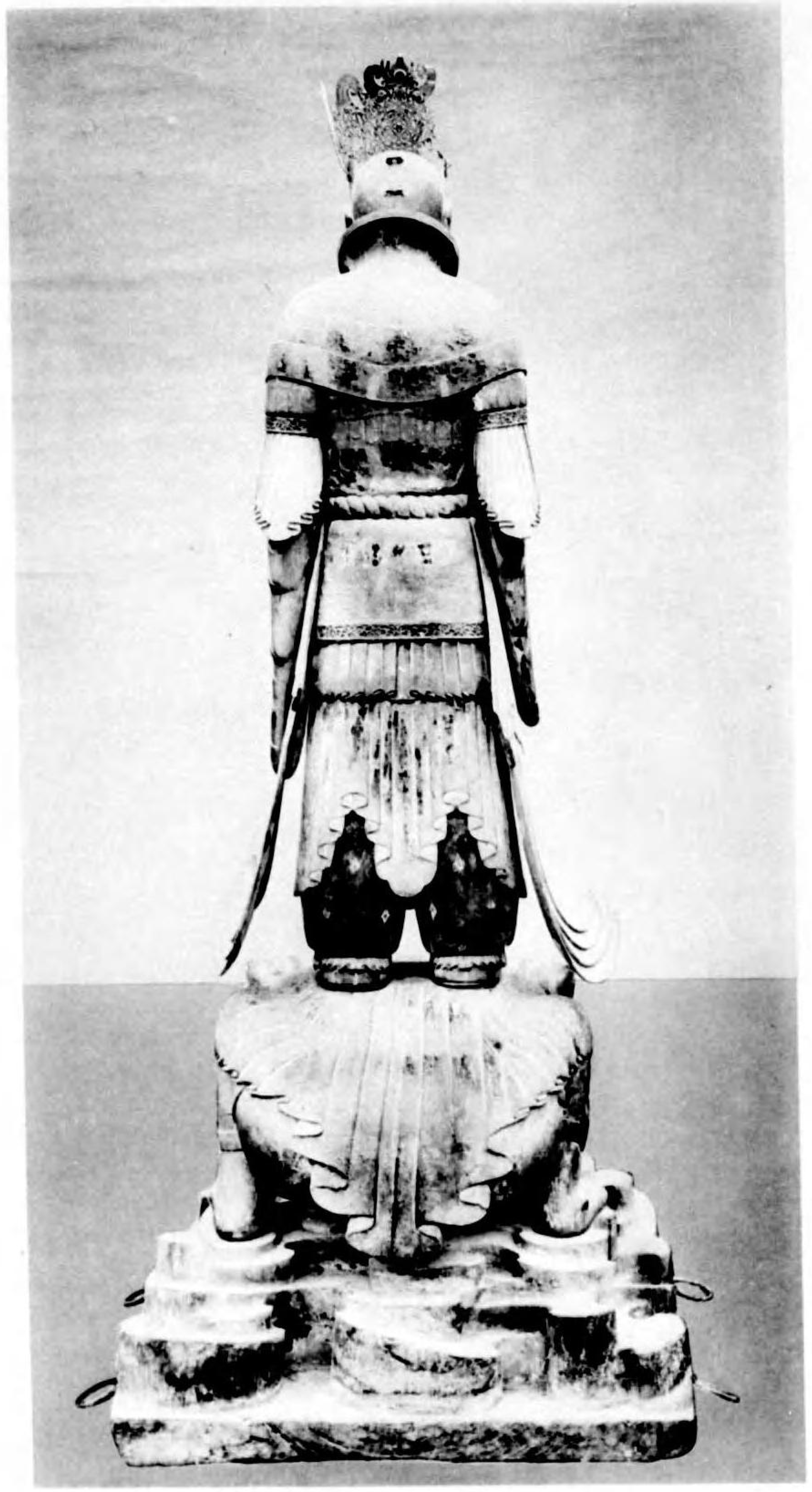
第十八、綱封藏

伽藍の廻廊を東に拔けて聖靈殿を過ぎり、更に東を指せば、床高く屋宇巍然として南北に長き建物あるを見む、即是綱封藏なり、昔は其の開閉に重を置き、僧綱の嚴封を以てせしかば、此名ある所以也、天平の流記資財帳には倉漆口あり、其後次第に數を增して卅三倉を算するに至りしが、中比また衰頽して、古今目錄抄の成れる鎌倉初世には、其の卅二を喪失して僅に綱封藏一口のみ存せりと云ふ、されば太子の器玩遺物を始めとして、其後聖武天皇奉獻の器物に至るまて、總ての珍寶奇品は盡く收めて綱封藏に集められ、法隆寺唯一の寶藏として延いて今日に及べる也、其の草創は和銅年中に存し、前に云へる如く資財帳にも記載せられたるものなれど、寺記に傳ふる所を以てすれば、數々大破損に罹りて修補を經ること多ければ、プランに於て或は原形を認むべきやを知らざれど、建築其物は永享六年九月大雨に依りて棟宇崩落以後のものと云はざるを得ず、唯其

内部及外部に用ゐたる扉は、和銅草創當時の儘を存する貴重のものなりと云ふ

金堂 木彫着色廣目天王立像（一五）

金堂 木彫着色廣目天王立像 一



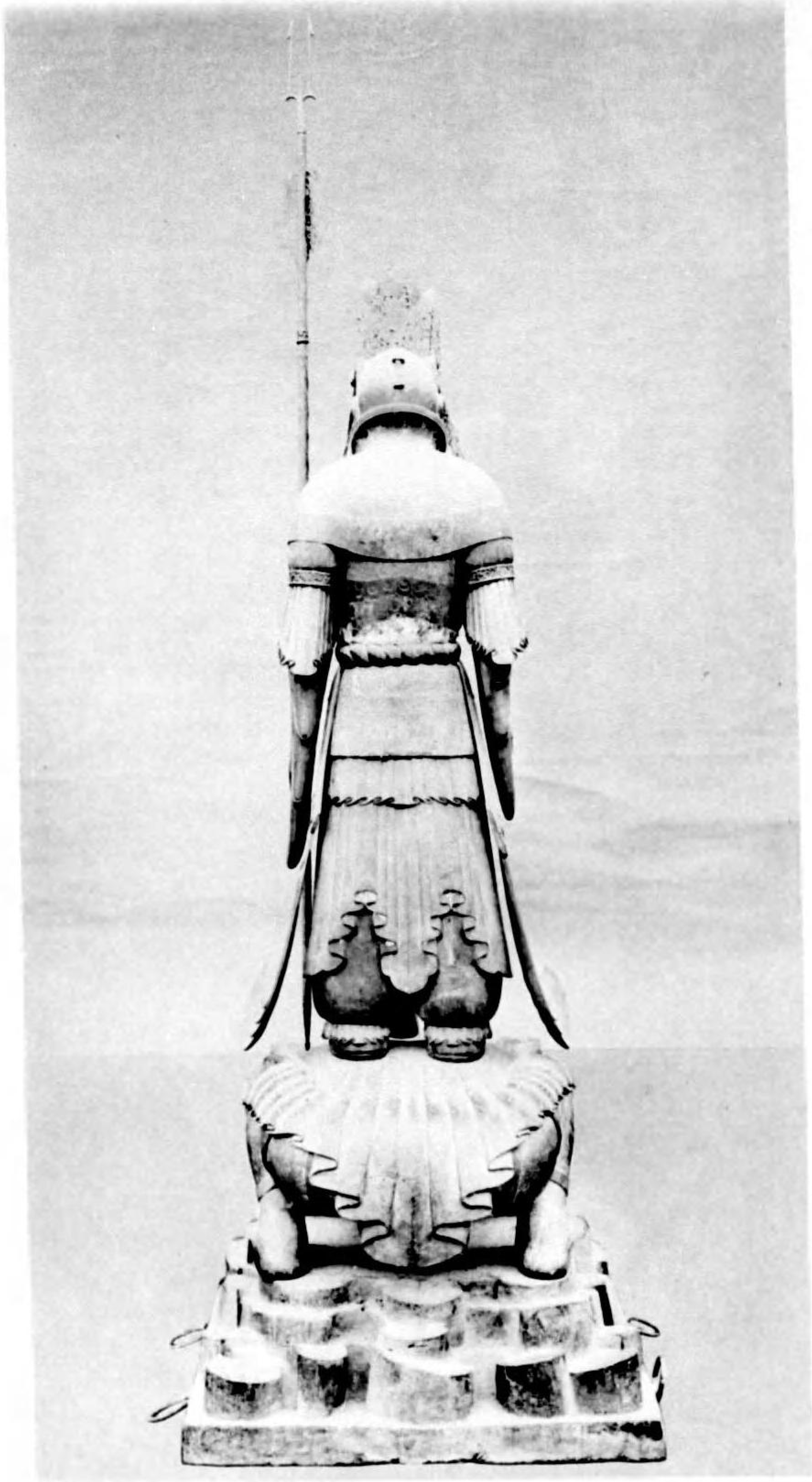
金堂 木彫着色廣目天王立像（一〇）

（四〇）像立十天日殿色着彫木　寺金

金寺　木彫着色大日如來立像

金堂　木彫着色増長天王立像（其

金堂木彫着色増長天王立像（九）

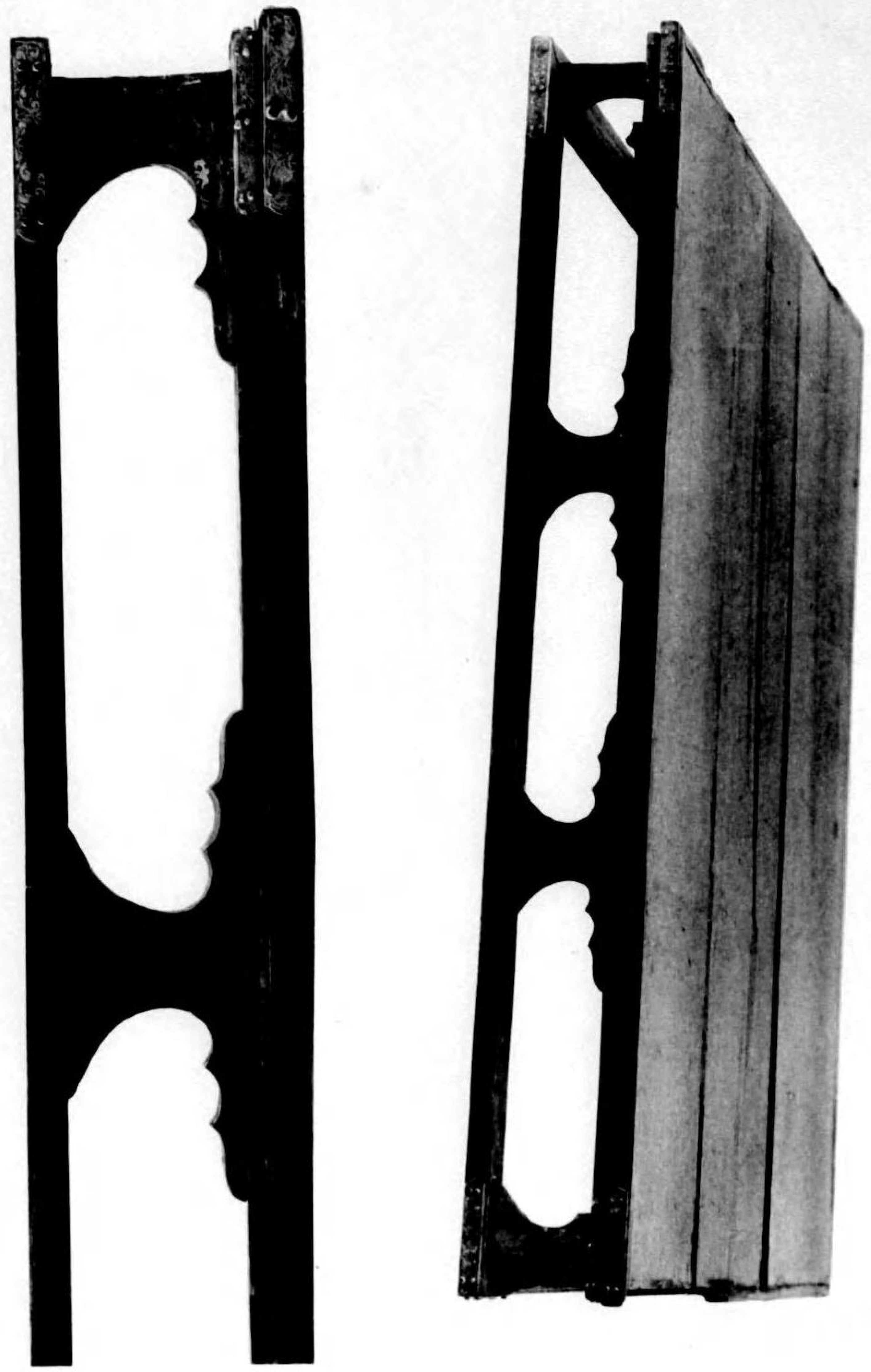


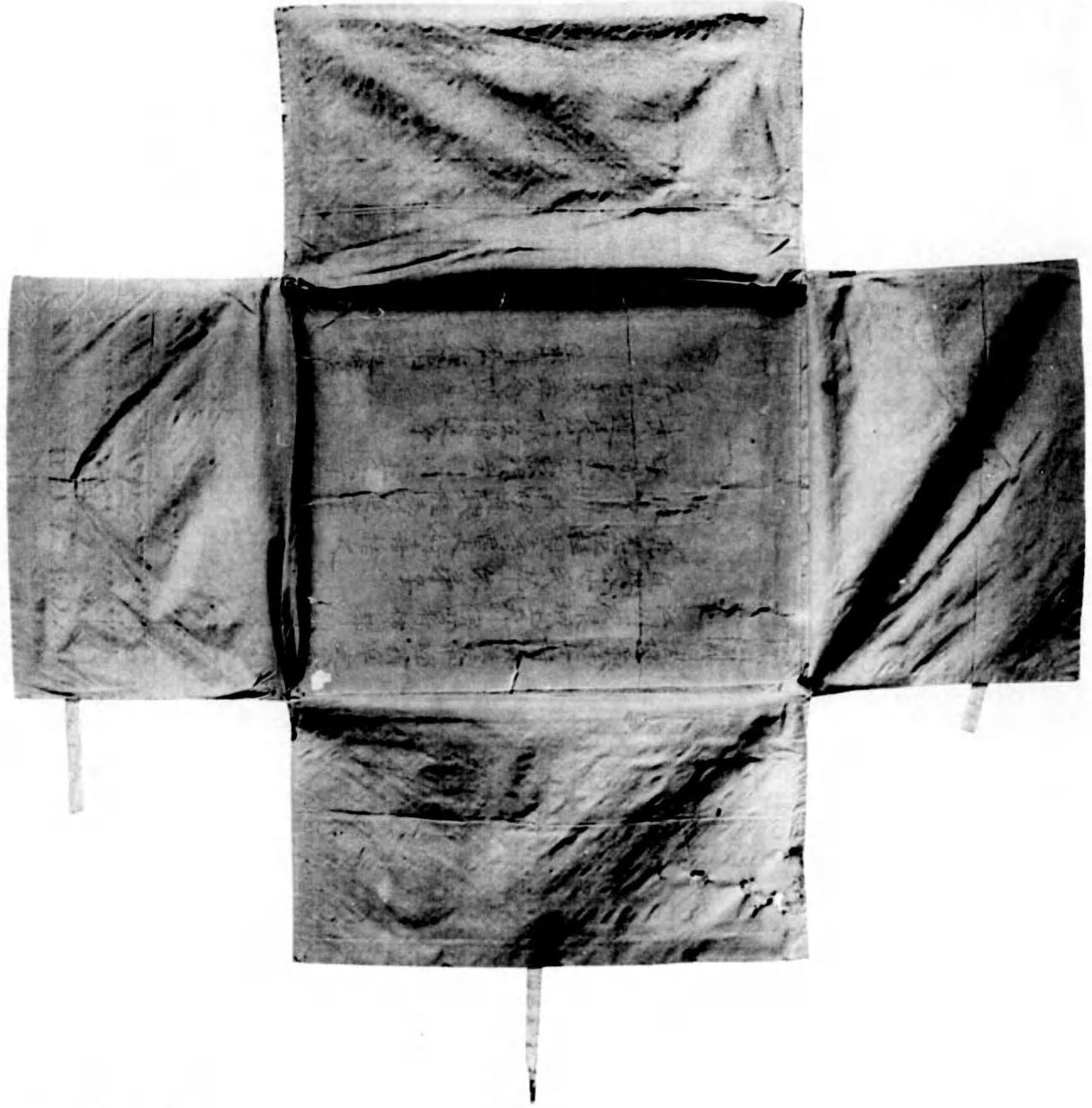
仝寺 木彫着色增長天王立像 ([illegible])

奈寺 木彫着色増長天王立像（頭部）

金寺 木彫着色増長天王立像 (68)

一四　京都大学　詩書

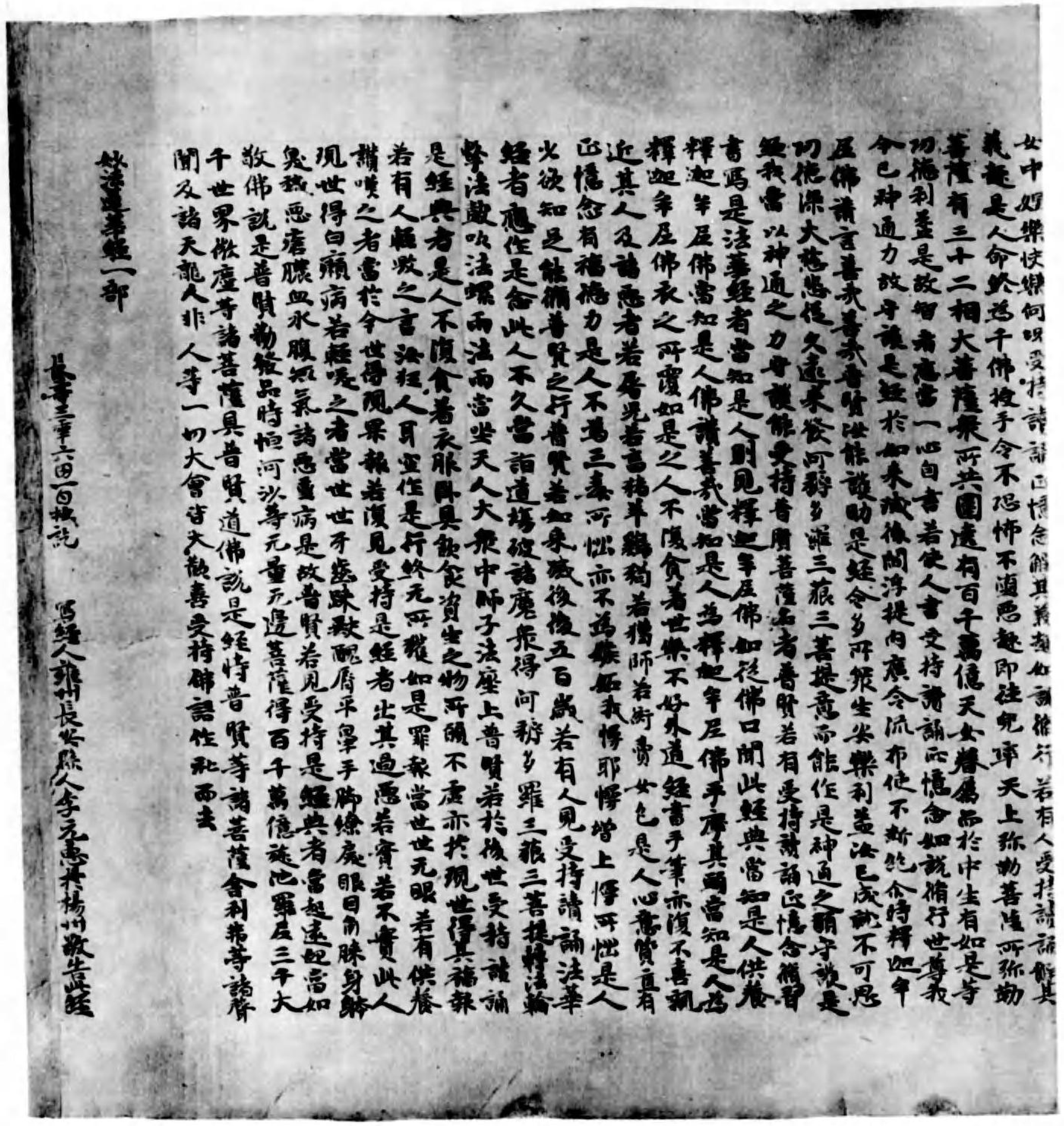




妙法蓮華經七卷一部成

妙法蓮華經序品第一　卷之一

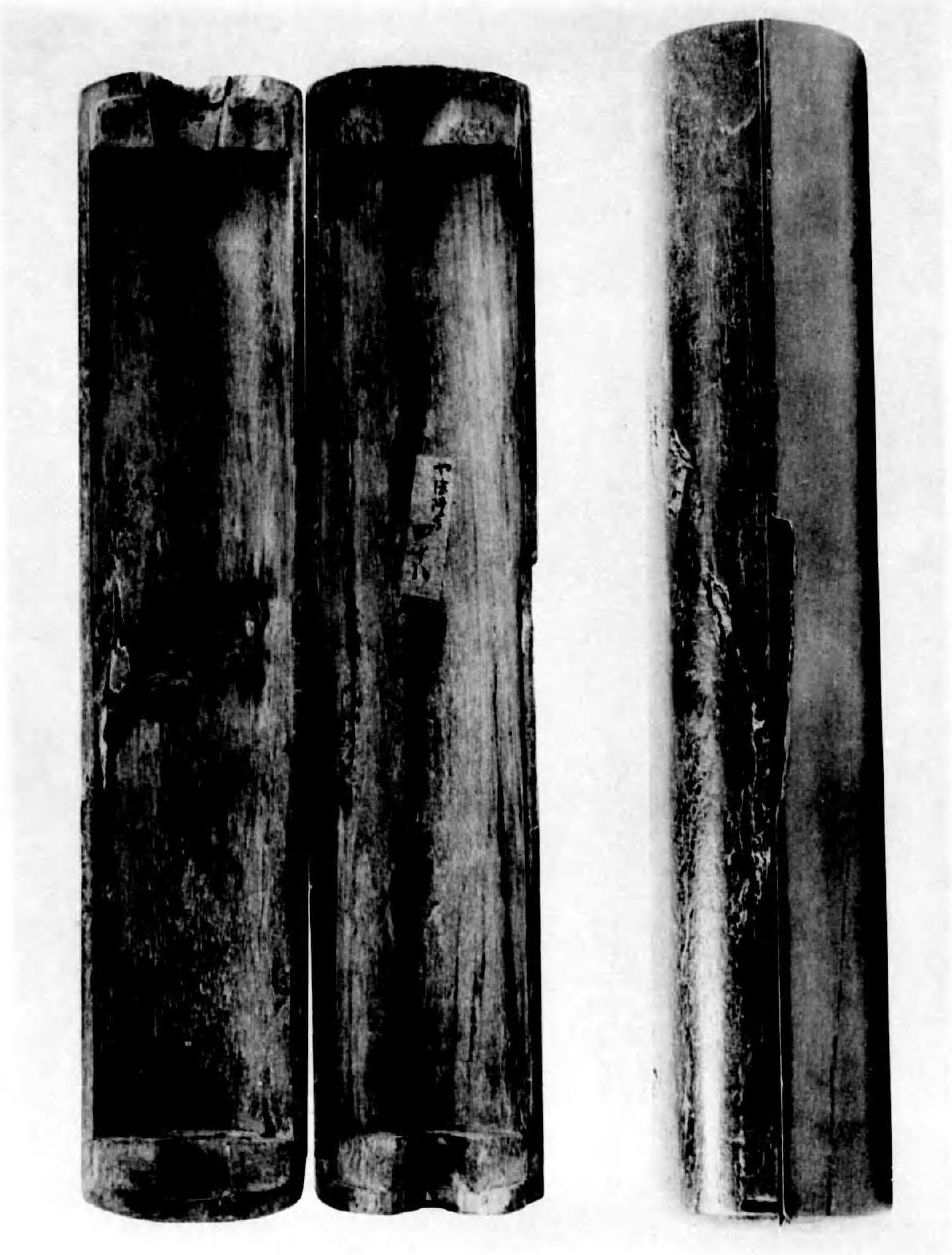
如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與大比丘衆萬二千人俱皆是阿羅漢諸
漏已盡無復煩惱逮得己利盡諸有結心得自在其名曰阿若憍陳如摩訶迦葉優
樓頻螺迦葉伽耶迦葉那提迦葉舍利弗大目揵連摩訶迦旃延阿㝹樓䭾劫賓那
憍梵波提離婆多畢陵伽婆蹉薄拘羅摩訶拘絺羅難陀孫陀羅難陀富樓那弥多
羅尼子須菩提阿難羅睺羅如是衆所知識大阿羅漢等復有學无學二千人摩訶
波闍波提比丘尼與眷屬六千人俱羅睺羅母耶輸陀羅比丘尼亦與眷屬俱菩薩
摩訶薩八萬人皆於阿耨多羅三藐三菩提不退轉皆得陀羅尼樂說辯才轉不退
轉法輪供養无量百千諸佛於諸佛所殖衆德本常為諸佛之所稱歎以慈脩身善
入佛慧通達大智到於彼岸名稱普聞无量世界能度无數百千衆生其名曰文殊
師利菩薩觀世音菩薩得大勢菩薩常精進菩薩不休息菩薩寶掌菩薩藥王菩薩
勇施菩薩寶月菩薩月光菩薩滿月菩薩大力菩薩无量力菩薩越三界菩薩䟦陀
婆羅菩薩弥勒菩薩寶積菩薩導師菩薩如是等菩薩摩訶薩八萬人俱尒時釋提
桓因與其眷屬二萬天子俱復有名月天子普香天子寶光天子四大天王與其眷
屬萬天子俱自在天子大自在天子與其眷屬三萬天子俱娑婆世界主梵天王尸
棄大梵光明大梵等與其眷屬萬二千天子俱有八龍王難陀龍王䟦難陀龍王娑
伽羅龍王和脩吉龍王德叉迦龍王阿那婆達多龍王摩那斯龍王優鉢羅龍王等
各與若干百千眷屬俱有四緊那羅王法緊那羅王妙法緊那羅王大法緊那羅王
持法緊那羅王各與若干百千眷屬俱有四乾闥婆王樂乾闥婆王樂音乾闥婆王
美乾闥婆王美音乾闥婆王各與若干百千眷屬俱有四阿脩羅王婆稚阿脩羅王
佉羅騫䭾阿脩羅王毗摩質多羅阿脩羅王羅睺阿脩羅王各與若干百千眷屬俱
有四迦樓羅王大威德迦樓羅王大身迦樓羅王大滿迦樓羅王如意迦樓羅王各
與若干百千眷屬俱韋提希子阿闍世王與若干百千眷屬俱各禮佛足退坐一面
尒時世尊四衆圍遶供養恭敬尊重讚歎為諸菩薩說大乘經名无量義教菩薩法
佛所護念說此經已結加趺坐入於无量義處三昧身心不動是時天雨曼陀羅華


女中娛樂快樂何況受持讀誦正憶念解其義趣如說修行若有人受持讀誦解其
義趣是人命終為千佛授手令不恐怖不墮惡趣即往兜率天上彌勒菩薩所彌勒
菩薩有三十二相大菩薩衆所共圍遶有百千萬億天女眷屬而於中生有如是等
功德利益是故智者應當一心自書若使人書受持讀誦正憶念如說修行世尊我
今以神通力故守護是經於如來滅後閻浮提內廣令流布使不斷絕尒時釋迦牟
尼佛讚言善哉善哉普賢汝能護助是經令多所衆生安樂利益汝已成就不可思
議功德深大慈悲從久遠來發阿耨多羅三藐三菩提意而能作是神通之願守護是
經我當以神通力守護能受持普賢菩薩名者普賢若有受持讀誦正憶念修習
書寫是法華經者當知是人則見釋迦牟尼佛如從佛口聞此經典當知是人供養
釋迦牟尼佛當知是人佛讚善哉當知是人為釋迦牟尼佛手摩其頭當知是人為
釋迦牟尼佛衣之所覆如是之人不復貪著世樂不好外道經書手筆亦復不喜親
近其人及諸惡者若屠兒若畜猪羊雞狗若獵師若衒賣女色是人心意質直有
正憶念有福德力是人不為三毒所惱亦不為嫉妬我慢邪慢增上慢所惱是人
少欲知足能修普賢之行普賢若如來滅後後五百歲若有人見受持讀誦法華
經者應作是念此人不久當詣道場破諸魔衆得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪
擊法鼓吹法螺雨法雨當坐天人大衆中師子法座上普賢若於後世受持讀誦
是經典者是人不復貪著衣服臥具飲食資生之物所願不虛亦於現世得其福報
若有人輕毀之言汝狂人耳空作是行終无所獲如是罪報當世世无眼若有供養
讚歎之者當於今世得現果報若復見受持是經者出其過惡若實若不實此人
現世得白癩病若輕笑之者當世世牙齒踈缺醜脣平鼻手脚繚戾眼目角睞身體
臭穢惡瘡膿血水腹短氣諸惡重病是故普賢若見受持是經典者當起遠迎當如
敬佛說是普賢勸發品時恒河沙等无量无邊菩薩得百千萬億旋陀羅尼三千大
千世界微塵等諸菩薩具普賢道佛說是經時普賢等諸菩薩舍利弗等諸聲
聞及諸天龍人非人等一切大會皆大歡喜受持佛語作禮而去

妙法蓮華經一部

長壽三年六月一日抄訖

寫經人雍州長安縣人李元惠於楊州敬告此經



御物　竹木筆書法華經筒

大正六年一月廿六日印刷
大正六年一月三十日發行

大和國法隆寺藏版
東京美術學校編輯

東京市下谷區上根岸町百廿二番地
發行者　白石村治
東京市下谷區中根岸町六十八番地
印刷者　武田勝之助
東京市下谷區中根岸町六十八番地
印刷所　壘彩堂

終